

変えよう! 杉並

杉並区議会議員(無所属)

松尾 ゆり



生きられるまち 暮らせる政治

今 生活が急速に厳しくなっています。物価上昇が進む一方、賃金は上がらず、若い世代は将来を見通すことができません。中小零細事業者も苦境にあり、多くの事業者が廃業を余儀なくされています。一部の大企業と富裕層だけを優先してきた「アベノミクス」の結果です。

し かも、政府は「台湾有事」を煽り、「専守防衛」原則を放棄する「敵基地攻撃」、国民に負担を強いる軍事費増進を進めています。「日米同盟」に縛られて対中国の最前線で日本が戦争することは決してあってはなりません。

杉 並区政もこれまで一部の事業者や有力者の利益を優先し、道路拡張や駅前再開発、大規模施設の新築に予算をつぎこむ一方、身近な児童館、ゆうゆう館、集会施設を廃止する「施設再編」を推進してきました。

保 育園や学童保育、給食など子どもたちの生活に直結する事業の民間委託は低賃金と不安定就労、サービスの質低下につながりました。区長は交代しましたが、「施設再編」と「民営化」を軸とする行政の体質はまだ変わっていません。

私 は初当選以来「住民自治を取り戻す」ことを政治信条としてきました。「対話と共有」「公共の再生」を掲げる岸本区長のもとで顔面どおり公正公平な杉並区を実現できるよう今後も全力で奮闘してまいります。

松尾ゆりさんを 応援します

天木 直人
元レバノン大使

片岡 健
元東京都日中友好協会理事長

小林 緑
国立音楽大学名誉教授

中原 道子
早稲田大学名誉教授

西澤 清
元日教組副委員長

羽場 久美子
青山学院大学名誉教授

林 昭男
建築家・滋賀県立大学名誉教授

外国ルーツ、外国籍の子どもたち (2022年10月決算特別委員会より)

【松尾】外国にルーツをもつ子どもに対し、基本的人権の観点から、その歴史、文化、言語を学ぶ権利について保障することは、杉並区においても当然のことと思うが、いかがか。

【岸本区長】ご指摘の通り歴史、文化、言語を学ぶことは重要。私が子育てしたアムステルダムではクラスの半数以上が外国ルーツの子どもだった。先日杉並の子どもたちが、クラスの外国ルーツの子たちのことを話してくれた。私たちが子どもの頃と違い、多様性を自然に学び、色んな国の言葉、習慣がとても興味深いと語っていたのが印象的だった。

【コメント】区議会で外国人に対するヘイトや排外主義的発言が出ることがあります。中国、韓国、朝鮮、ロシア…隣国の人々と共存することが平和の第一歩です。



2023年4月23日は杉並区議会議員選挙の投票日です

阿佐ヶ谷再開発の見直しを

(2022年11月一般質問などから)

阿佐ヶ谷駅北東地区の再開発計画は、病院の建替え工事遅延のため全体スケジュールが遅れることになりました。病院跡地に移転予定の杉一小的建築も「玉突き」で遅れます。杉一小的の校舎は築70年まで使う計画(現在築64年)ですが、遅延のためさらに1年延びることになりそうです。今後も同様に杉一小建替えがどんどん延びていく心配があります。

杉一小は現地建替えに計画転換すべきです。

〈阿佐ヶ谷再開発計画の遅延〉

- (1) 河北病院→けやき屋敷に新築・移転(着工は7.5か月遅延し2023年2月。竣工予定は2025年5月に変更)
- (2) 杉一小→河北病院跡地に移転(2028年3月竣工予定だったが、病院の解体を待つため延期に)
- (3) 杉一小跡地→高層ビル建設(用途は未発表)

【松尾】荻窪、西荻窪、高円寺では、区がよびかけたまちづくり協議会やまちづくりについての対話の場があるのに、阿佐ヶ谷だけは病院と地主さんら一部有力者の「エリアマネジメント」だけを推進しているのは不当。阿佐ヶ谷でも区が主導して「まちづくり協議会」を行い住民全体で考えていくべき。

【答弁】「エリアマネジメントに取り組みたい」との意向を受け支援している。取組みの中で「地域の価値向上」をめざす幅広い議論が行われるよう検討していく。

【コメント】「地域の価値向上」は要注意です。中野北口サンプラザ跡地にマンションを建てる野村不動産はエリアマネジメントの目的を「収益床の資産価値向上」ともって露骨に述べています。



杉一小は現地建替えに計画変更を

行政情報は公開が原則

(2022年10月決算委員会より)

【松尾】阿佐ヶ谷のまちづくりに関する他の委員への答弁で、個人情報なので事業者氏名を非公開としたというが、東京地裁判決(*)に反しているのではないかと。

【答弁】判決は個人に関する情報であっても「事業を営む個人の当該事業に関する情報」は除くとした。個人の氏名だから機械的に非公開となるわけではない。非公開/公開の判断においては、しっかりと判断する必要がある。先日、全庁職員に向けて情報公開についての通知(図)を発送した。

【コメント】「個人情報だから」をタテに区の契約や購入に関わる情報についても安易に「非公開」としてきた杉並区ですが、岸本区長就任により、やっと原則的な答弁が出たことを歓迎します。

(*) 東京地裁判決：私は杉一小的の土地交換(換地)についての情報公開を請求したところ黒塗りであったため、やむなく裁判に訴えました。昨年4月8日の地裁判決では私の主張のほとんどが認められました。上記「個人情報」の扱いも論点の1つでした。



情報公開に関する区役所全部署への通知

荻窪

荻窪駅の不便解消と交通安全

荻窪地域の2つの陳情が審議され「趣旨採択」となりました(私は「採択」すべきとの立場から「趣旨採択」には反対)。
①荻窪駅南北交通の不便解消、
②駅前公共施設の整備、
③南口バス通り(補助131号線)の一方通行維持を求める内容です。
①は「荻窪まちづくり会議」でも度々議論になってきましたが、区は「荻窪のまちづくりはタウンセブン等の建替え期に合わせて」という姿勢で膠着状態です。防災や交通安全のための荻窪駅前整備は急がれています。

児童館廃止方針をやめ事業の充実を (2022年11月一般質問などから)

杉並区は41館あった児童館を14館廃止、現在は27館にまで減っていますが、さらに6館の廃止が計画されています。岸本区長就任により高井戸西、高井戸、阿佐谷、方南児童館は「再編(廃止)の取組は一旦休止」とされましたが、下高井戸児童館は昨年12月区議会で廃止を可決(私は反対)、阿佐谷南児童館は来年度廃止の計画がそのまま進行しています。

【松尾】児童館廃止と学校への「機能移転」は①遊びの自由がなく管理的②校庭や特別教室を使える日数、時間が少ない(表参照)③民間委託のため短時間のアルバイトが多く職員が日替わりの体制、など課題が

利用場所	最大回数	最小回数
校庭	杉九小221回	高円寺学園42回
体育館	高円寺学園264回	杉二小73回
特別教室	松ノ木小98回	桃二小1回

放課後等居場所事業の校庭等利用回数
(2021年度年間実績 学校によって大きな格差がある)

あると考えるが区の見解は。

【答弁】学校内の事業では校庭、特別教室の使用時間が限定的であることや、民間委託の質の向上が課題。

【松尾】下高井戸児童館の廃止は中止を。仮に子ども子育てプラザに転換したとしても小学生の利用を保障すべき。

【答弁】小学生が時間帯によりプラザのプレイホールを使えないか検討している。

【松尾】阿佐谷南児童館は近隣に代替地、子どもの居場所を保障すべき。

【答弁】家でも学校でもない第三の子どもの居場所(サードプレイス)の必要性は認識しており検討する。



コミュニティふらっとに転換された東原児童館

天沼・本天沼

ゆうゆう館と集会所の統合は無理 (2022年11月一般質問より)

本天沼区民集会所、天沼区民集会所、ゆうゆう天沼館の3つの施設を統合する計画が昨年度突然決定されました。11月には区民説明会が開かれ約150人が参加して3時間にわたる熱心な議論が繰り広げられました。岸本区長は「ご意見は持ち帰って検討する」とまとめました。

〈計画概要〉

- (1) 本天沼区民集会所→2023年3月廃止→増築→2024年4月「コミュニティふらっと本天沼」に転換
- (2) ゆうゆう天沼館→2023年10月廃止→解体→パピナ荻窪天沼保育園園舎を新築
- (3) 天沼区民集会所(ウェルファーム4F)→2023年9月廃止→区役所の会議室と事務所に転換へ。



こじんまりとした本天沼区民集会所

(*)3施設の利用団体・個人は全て2024年4月から(1)「コミュニティふらっと本天沼」へ。

【松尾】ゆうゆう天沼館の廃止、及び3つの施設を1つに集約することは無理がある。また新築から4年しか経っていないウェルファームの天沼集会所廃止は見直すべき。

【答弁】地域説明会で、ゆうゆう館利用者の活動保障、防音対策、旧若杉小の活用、など多くの建設的な意見をいただいた。あらためて精査、検討していく。

下井草

下井草駅高架化?それとも地下化?

西武新宿線の立体交差化計画が進められる中、残る下井草駅の構造形式(*)が焦点となっています。

高架は立ち退きなど地権者の不利益が大きく、また近隣には騒音、日影など多くの問題が生じます。

地元の方々は「地下化にしてほしい」と要望していますが、区担当者は「高架か地下かは東京都と西武が決めること」といいます。しかし、影響を受けるのは地元。住民参加で都・区・西武鉄道がしっかり話し合うべきです。

(*)西武新宿線井荻より西は「高架」、野方より東は「地下」で事業が進行中。

松尾 ゆり はめざします！

① 住む 駅前再開発はストップ 区民生活を支える

高層ビル、タワマンを林立させる駅前再開発や道路拡張はゼネコンや大型店舗など一部の企業や地元の有力者が潤うだけ。区民が生活不安にあえぐ中、多額の税金をつぎ込んでいる場合ではありません。住民の話し合いの場をつくり、杉並らしいまちづくりに転換すべきです。

- 駅前周辺まちづくりは商店街の活性化を重視。西荻窪、高円寺、成田東等の都市計画道路は見直す
- 阿佐ヶ谷駅北東地区再開発は抜本的に見直し、杉一小は現地建替りに計画変更
失われた森を補償する新たな緑化を
- 阿佐ヶ谷のまちづくりは、開かれたまちづくり協議会で議論する
- 調布市で陥没事故を起こした危険な外環道工事は中止を
- 在宅介護の負担を軽く。高齢者、障害者福祉は区独自の政策を充実する
- 国民健康保険料、介護保険料の負担軽減。公営住宅の増設と家賃補助の実施
- 男女平等センターの事業充実と男女平等条例の制定



② 育つ 児童館の存続・拡充 ゆとりある保育を実現する



子どもには安心して遊べる様々な場所が必要です。児童館の廃止方針は撤回し、児童館を存続・拡充すべきです。保育園や学童クラブは子どもの生活の場。民間委託一辺倒を見直し、ゆとりある環境と職員配置の改善が急がれます。

- 児童館の存続・拡充。中高生の居場所として第二、第三の「ゆう杉並」の設置
- 保育園・学童クラブのスペースに余裕をもたせ、職員配置を増やす
- 区立保育園、学童クラブの民営化ストップ
- 学校の先生が足りない。教員配置の改善と働き方改革を国・都に求める
- 図書館、郷土博物館の充実。科学館にかわる新たな拠点の拡充で、子どもも大人も専門家から深く学べる仕組みをつくる

③ 働く 雇用の安定と賃上げ 商店街への支援強化

杉並区の商工費はずっと23区最低。大型店やチェーン店ばかりの街にならないよう、杉並らしい個性ある商店街への支援強化が必要です。区の事業・施設で働く人の半分は民間委託です。委託先の待遇を引き上げるとともに、区直営に戻せる事業は直営で待遇改善を。

- 増税反対。インボイス制度導入反対。消費税は廃止へ
- 商店会の加盟率向上、経営支援、商店会事務のサポートの強化
- プレミアム商品券は定期的に発行を
- 「官製ワーキングプア」につながる区事業の安易な民営化をやめ区の直接雇用を増やす



松尾 ゆり プロフィール

- 杉並区議会議員(3期)。保健福祉委員会、道路交通特別委員会に所属
- 私立阿佐ヶ谷幼稚園、区立馬橋小、杉森中、都立西高、京都大学に学ぶ
- 杉九小・東原中元PTA会長。保護者の立場から保育、教育問題に携わったかわら、杉並病や外環道などの問題に取り組む
- 区議会では、児童館・ゆうゆう館の廃止計画(区立施設再編整備計画)や阿佐ヶ谷再開発などを追及
また、区役所の非正規雇用や民間委託の労働問題に尽力
- あんさんぶる荻窪財産交換、保育園民営化、公園廃止、高円寺小中一貫校、補助132号線など、住民運動とともに田中前区政と対峙してきた
- 家族は夫と3男。子どもたちはさゆり保育園、阿佐ヶ谷保育園、杉九小、東原中出身

